

課題研究

6月10日(土) 13:30~17:40

この内容は「大会プログラム」の課題研究部分を抜粋したものです。

科学技術イノベーション政策と大学・高等教育

<趣旨>

「成長しない国家」である日本が「イノベーション」に活路を求めるようになって久しい。とりわけ2014年には、総合科学技術会議(CSTP)が、科学技術政策の司令塔機能の強化を目的に「総合科学技術イノベーション会議(CSTI)」と改称され、高等教育政策は科学技術・イノベーション(STI)政策に大きな影響を受けつつある。それは経済的なイノベーションにとどまらず、大学経営改革への言及も多く、総合知・文理融合などの推進政策は人文社会科学分野にも無縁ではない。

こうした現状に鑑み、昨年度から「科学技術イノベーション政策と大学・高等教育」と題する課題研究を始めた。昨年度は、STI政策と大学・高等教育との関わりについて、従来の科学技術政策からSTI政策への変容、大学改革におけるSTI政策の位置づけ(STI政策における大学改革の位置づけ)、10兆円大学ファンド問題などを中心に検討した。本年度は、昨年度扱えなかった重要なトピックとして、次の3柱の課題を設定した。

- ①STI政策と大学経営(報告者:両角亜希子):科学技術イノベーション政策は科学技術や研究活動に関わるものに限定されない。しばしば大学経営やガバナンスに関する政策提言がなされ、それが大学の在り方に大きな影響を及ぼしつつあるように思われる。STI政策と大学経営とがどのように結びつき、そこにどのような問題があるのかを探る。
- ②大学と公共性(報告者:高木航平):「公共性」は、かつて政府による大学の財政支出を確保するための根拠とされてきたが、財政難や市場化のなかでその効力は弱められた。また、政策において大学のどのような性質や機能を公共的と捉えるかも、とりわけSTI政策との接点において大きく変化している。その変化がどのようなものなのか、そこにどのような問題があるのかを探る。
- ③地域創生と政策のパッケージ化(報告者:標葉隆馬):STI政策における10兆円大学ファンドはごく一部の研究大学の振興政策だという批判もあるが、他方で地域中核・特色ある研究大学総合振興パッケージに見られるように、それを補完する政策も策定されている。とくに人材養成を通じた地域イノベーションの活性化を狙うものだが、こうした政策パッケージ化が大学と地域との関係に何をもたらし、そこにどのような課題があるのかを探る。

コメンテータは、青木栄一(東北大学大学院教育学研究科教授)、司会是小林信一・阿曾沼明裕が担当する。

STI政策は多岐にわたり、文理融合・総合知、研究インテグリティ、経済安全保障など、今回扱うことができない問題も多い。これらは将来検討すべき内容だが、今年度は上記の3つの課題を通じて、STI政策が大学にどのように影響を及ぼし、大学にとってどのような意味があるのかを検討し、高等教育学会・研究者が果たすべき役割などについてもあわせて検討したい。

科学技術イノベーション政策は、研究活動のみならず、大学や高等教育の様々な局面に関わる問題である。その意味で多くの会員にご関心を持って頂きたいと考えている。

司会:小林信一(広島大学)・阿曾沼明裕(東京大学)

<話題提供>

1. 両角亜希子(東京大学)
STI政策と大学経営
2. 高木航平(上智大学)
大学と公共性
3. 標葉隆馬(大阪大学)
地域創生と政策のパッケージ化

<コメンテータ>

青木栄一(東北大学)

高等教育における多様性と包摂

<趣旨>

本課題研究は、「高等教育における多様性と包摂」をテーマとし、その推進方法と、業績主義的平等や卓越性との対立や調和を考察することを目的としている。昨年の本課題研究では、日本の高等教育機関における「多様性と包摂」の現状を確認した。具体的には、業績主義的平等や卓越性との関係を考察するため、「多様性と包摂」の観点から、貧困、性自認、障害、国籍の4つについて、特に学生の受け入れ(入口)と学修・生活(プロセス)に焦点を当てた検討を行った。

本年は、引き続き関心を持つ会員に開かれた形で、現状とその背景分析を超えた、社会理論・価値システムの領域までを視野に入れた議論を行う。具体的には、「排除と包摂」に関する社会理論・枠組みと高等教育システムに内在する歴史的な価値・規範との連関、および高等教育の参加拡大、スキル開発・普及、システム内の分化や格差に関する理論的枠組みを示した上で、高等教育の多様性と包摂がどのように捉えられるかを論じる。

さらに、以上の理論と枠組、そして、「多様性と包摂」が問われる多様な属性領域を意識した上で、高等教育の「出口」であり、企業社会に代表される外部経済システムとの接点にあたる学卒就職に焦点を当てた検討を行い、現状と課題を再評価する。

これらの取り組みを通じて、2年間の研究で現状、課題、社会理論、価値システムを統合し、「高等教育における多様性と包摂」に関する総括を行う。

司会：大西晶子(東京大学)・西本佳代(香川大学)

問題提起・企画の意図

白川展之(新潟大学)

報告1. 排除型社会下の高等教育における「多様性」・「保障」のかたち

倉石一郎(京都大学)

報告2. 高等教育の参加拡大論を超えて：EE-SDモデルによる多様性と包摂へのアプローチ

荒木啓史(香港大学)

報告3. 高等教育の「出口」における「多様性と包摂」の課題と展望：日本の学卒就職の行方に焦点を当てて

(企画メンバーの合作)

居神浩(神戸国際大学)・武藤浩子(早稲田大学)・孟碩洋(東京大学大学院)

課題研究企画 参加者

担当理事 米澤彰純(東北大学) 吉田文(早稲田大学)

幹事 白川展之(新潟大学) 松村智史(名古屋市立大学)

居神浩(神戸国際大学) 岩本健良(金沢大学) 内山弘美(茨城高等工業専門学校)

大佐古紀雄(育英短期大学) 太田浩(一橋大学) 大西晶子(東京大学) 大場淳(広島大学)

小泉かさね(大阪大学大学院) 小嶋緑(広島大学大学院・東北大学) 鈴木拓人(筑波技術大学)

西本佳代(香川大学) 朴炫貞(いのち支える自殺対策推進センター) 福田由紀子(東京大学大学院)

武藤浩子(早稲田大学) 孟碩洋(東京大学大学院)